

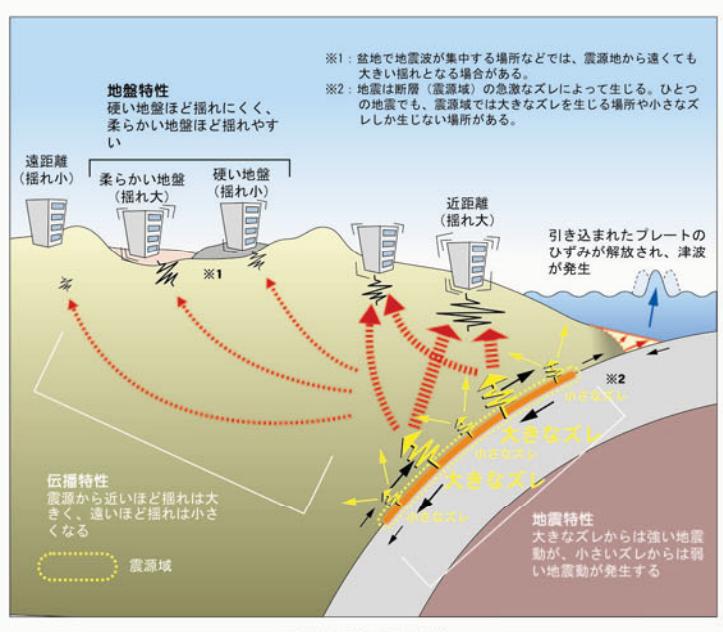


肝付町 揺れやすさマップ。

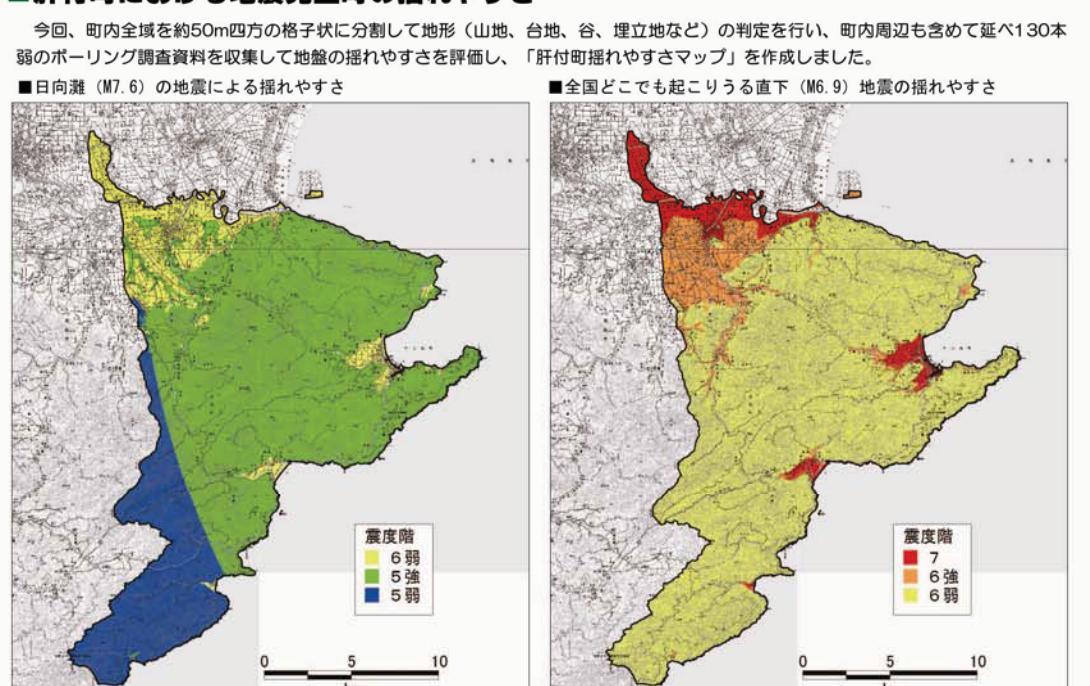
■全国で予測されるこれから地震



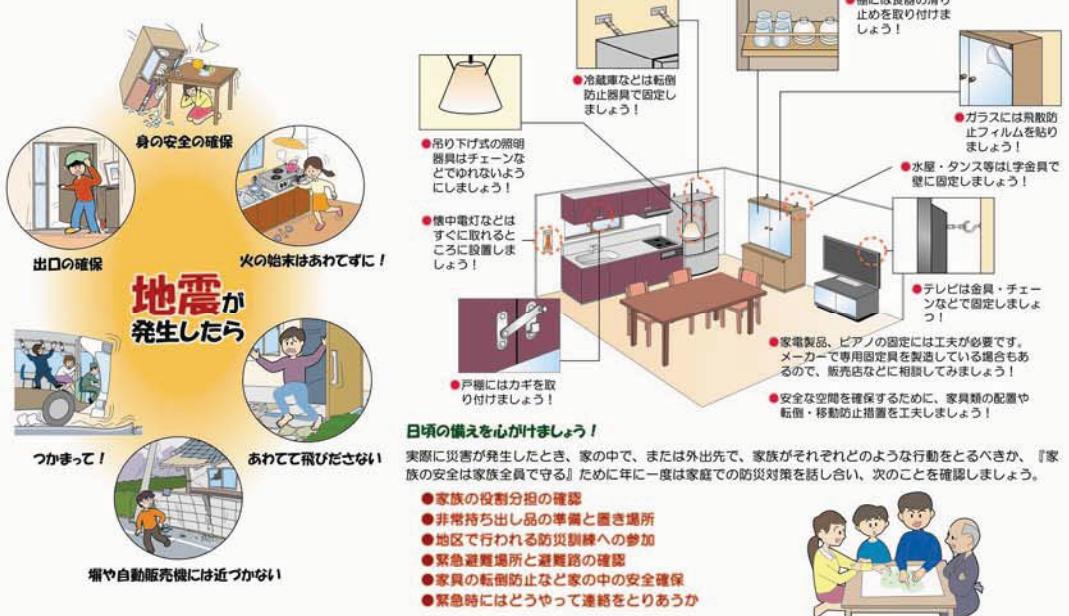
■日向灘での地震



■肝付町における地震発生時の揺れやすさ



■地震への備えと心構え



お問い合わせ先
肝付町役場 建設課 建築係 TEL: 0994-65-2511 (代表) 0994-65-8424 (直通)

■平成以降に発生した主な地震

出典: 気象庁、消防庁データより

番号	発生年月	名 称	マグニチュード	震度	被 害
①	H5年 1月	釧路沖地震	7.5	6	死者 2 全壊 53
②	H5年 7月	北海道南西沖地震	7.8	5	死者 202 全壊 601
③	H6年10月	北海道東方沖地震	8.2	6	死者 0 全壊 61
④	H6年12月	三陸はるか沖地震	7.6	6	死者 3 全壊 72
⑤	H7年 1月	兵庫県南部地震(阪神・淡路大震災)	7.3	7	死者 6,434 全壊 104,906
⑥	H9年 5月	鹿児島県薩摩地方地震	6.4	6弱	死者 0 全壊 4
⑦	H12年10月	鳥取県西部地震	7.3	6強	死者 0 全壊 435
⑧	H13年 3月	芸予地震	6.7	6弱	死者 2 全壊 70
⑨	H15年 7月	宮城県北部地震	6.4	6強	死者 0 全壊 1,276
⑩	H15年 9月	十勝沖地震	8.0	6弱	死者 0 全壊 116
⑪	H16年10月	新潟県中越地震	6.8	7	死者 68 全壊 3,175
⑫	H17年 3月	福岡県西方沖地震	7.0	6弱	死者 1 全壊 133
⑬	H19年 3月	能登半島地震	6.9	6強	死者 1 全壊 684
⑭	H19年 7月	新潟県中越沖地震	6.8	6強	死者 15 全壊 1,319
⑮	H20年 6月	岩手県内陸南部地震(岩手・宮城内陸部地震)	7.2	6強	死者 13 全壊 33
⑯	H20年 7月	岩手県沿岸北部地震	6.8	6弱	死者 1 全壊 1
⑰	H21年 8月	駿河湾地震	6.5	6弱	死者 1 全壊 0
⑱	H23年 3月	東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)	9.0	7	死者 16,079、不明 3,499、全壊 120,209棟 平成23年11月29日現在



■住宅の耐震化の重要性

住宅の耐震性は、一般的に古い建物ほど低いといわれていますが、その他にも建物の老朽化や増築あるいは偏って大きな窓があるような配置のアンバランス等が倒壊のやすさの要因であると言われています。

住宅は、建築基準法に適合するように建築されますが、その法律も過去の地震被害の経験に基づいて改正されてきており、特に、昭和56年の改正では耐震基準の強化がなされています。この建築基準は、兵庫県南部地震(阪神・淡路大震災)の被害の検証からもおおむね妥当な耐震基準であると考えられています。

ご自身や大切な家族の命を守るために、住宅の耐震化が重要です。

■肝付町建築物耐震改修促進計画

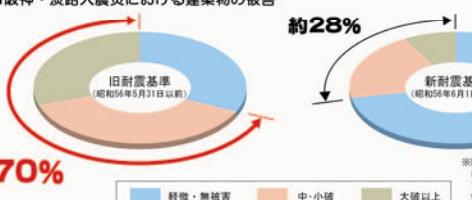
平成7年に起きた阪神・淡路大震災では、死者のほとんどが家屋などの倒壊によるものです。さらに、現在の耐震基準を満たしていない家屋の約70%が被害を受けていることなどを踏まえて、国では建築物の耐震改修の促進に関する法律を制定しました。

肝付町としては、住宅及び特定建築物の耐震化率を平成27年までに90%にすることを目指しています。

■阪神・淡路大震災の人的被害の状況



■阪神・淡路大震災における建築物の被害



※阪神・淡路大震災の死者数については、発表種別により認定範囲・時期が異なり、数字が異ります。
例) 警察庁: 5,502人(直接死のみ)
消防庁: 6,434人(震災関連死を含む)

■あなたの家が安全かどうか確認を!

地震の揺れによる建物被害は、揺れの強さだけでなく建物の構造、建築年度によって大きく異なります。揺れやすさマップと右のグラフであなたの家が安全かどうかを確認しておきましょう。

ステップ1

お住まいの地域で想定される震度を確認しましょう!

ステップ2

あなたの家の構造や建築年次を確認しましょう!

ステップ3

グラフで、揺れやすさと建物の構造や建築年次との関係を理解しましょう!

ステップ4

あなたの家が安全かどうか確認できましたか?

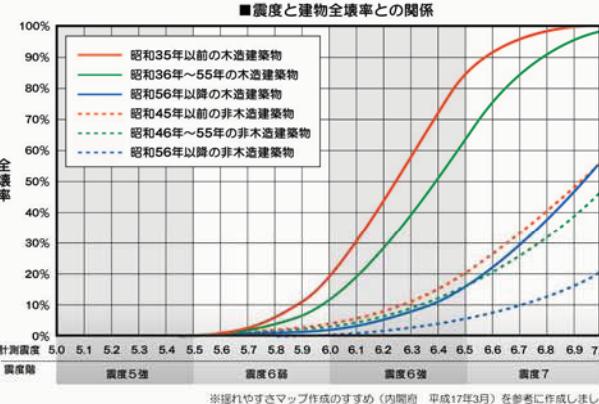
裏の揺れやすさマップで、お住まいの地域の震度階がどうなっているかを確認しましょう。

あなたの家は木造ですか？非木造ですか？いつ頃建てられましたか？上のグラフで該当する線を確認しましょう。

建物は非木造より木造、古いほど、地震が発生した時の全壊率が高くなります。

あなた自身や大切な人たちの命を守るために、建物の耐震化を進め必要があります。大きな地震が起ても、あなたの家が安全かどうか耐震診断を受けて確かめてみましょう。

■震度と建物全壊率との関係



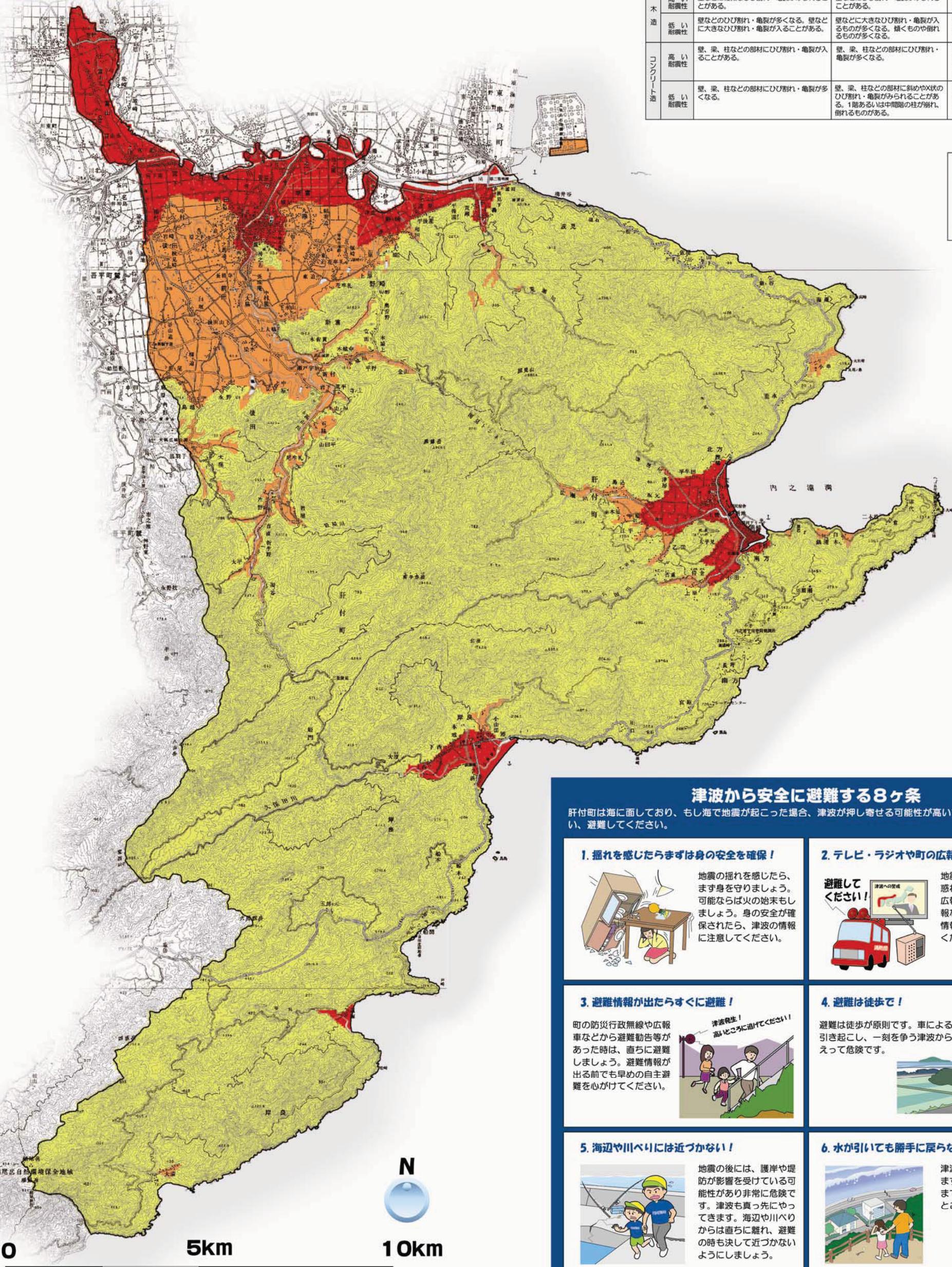
肝付町 揺れやすさ マップ。

揺れやすさマップ

防災対策に資するために、肝付町直下で地震（M6.9）が発生した場合の地下での最大の揺れを予測し、さらに各地点の地盤の特性を考慮して、それぞれの場所でどれくらい揺れるかを震度別に色分けしたものです。

■震度の説明

震度	震度 6 弱	震度 6 強	震度 7
状況	 立っていることが困難になる。固定していない家具の大半が移動し倒れるものがある。ドア開閉がなくなることがある。	 立っていることができず、はないと動くことができない。揺れにほんとうされ、動くことができず、飛ばされることもある。固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが多くなる。	 壁などのひび割れ・亀裂が多くのある。
木造	高い耐震性 壁などに軽微なひび割れ・亀裂がみられることがある。	低い耐震性 壁などのひび割れ・亀裂が多くなる。壁などに大きなひび割れ・亀裂が入ることがある。	高い耐震性 壁、梁、柱などの部材にひび割れ・亀裂があることがある。
コンクリート造	高い耐震性 壁、梁、柱などの部材にひび割れ・亀裂が多くのある。	低い耐震性 壁、梁、柱などの部材に斜めやX字のひび割れ・亀裂がみられることがある。1階あるいは中間階の柱が崩れ、倒れるものがある。	壁、梁、柱などの部材に斜めやX字のひび割れ・亀裂がさらに多くなる。1階あるいは中間階が変形し、まれに傾くものがある。



S=1/50,000

■各地の地震被害



津波から安全に避難する8ヶ条

肝付町は海に面しており、もし海で地震が起った場合、津波が押し寄せる可能性が高いです。下記8ヶ条に従い、避難してください。

1. 揺れを感じたらまずは身の安全を確保！



地震の揺れを感じたら、まず身を守りましょう。可能ならば火の始末もしめましょう。身の安全が確保されたら、津波の情報に注意してください。

2. テレビ・ラジオや町の広報で正しい情報を！



避難してください！
地震後はうわさやデマに惑わされず、報道や町の広報で津波の注意報や警報などを入手し、正しい情報に基づいて行動してください。

3. 避難情報が出たらすぐに避難！



町の防災行政無線や広報車などから避難勧告等があった時は、直ちに避難しましょう。避難情報が出る前でも早めの自主避難を心がけてください。

4. 避難は徒歩で！



避難は徒歩が原則です。車による避難は渋滞を引き起こし、一刻を争う津波からの避難にはかえって危険です。

5. 海辺や川べりには近づかない！



地震の後には、護岸や堤防が影響を受けている可能性があり非常に危険です。津波も真っ先にやってきます。海辺や川べりからは直ちに離れ、避難の時も決して近づかないようにしましょう。

6. 水が引いても勝手に戻らない！



津波は何度もやってきます。避難が解除されるまで避難場所など安全なところに留まりましょう。

7. お年寄りや体の不自由な方等の避難に協力！



お年寄りや体の不自由な方など、迅速な避難が困難な方に声をかけ、ご近所で助け合って、地域全体で早く避難が完了するよう心がけましょう。

8. 地域での協力が大切！



避難の時にはご近所にも声を掛け合い、みんなでけがや病気の方の手助けを行なうなど、地域で協力し合うことを心がけましょう。